

指定管理者制度導入施設評価票

評価対象年度	令和6年度			
施設名	秋田県自然体験活動センター	設置年	平成 19 年	
所在地	秋田県山本郡八峰町八森字御所の台53-1			
指定管理者	八峰町			
県所管課	生涯学習	課	調整・企画	チーム

1 施設の概要

設置目的	豊かな自然との触れ合いを通じて行う体験活動その他の体験の機会を提供し、もって青少年の心身の健全な発達を図るとともに、県民の生涯学習の振興に資することを目的として設置する。					
県の施策上の施設の位置付け	新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における施設の位置付け・目標 新秋田元気創造プラン 重点戦略【戦略6 教育・人づくり戦略】 〈目指す姿4 豊かな心と健やかな体の育成〉 施策の方向性① ・規範意識と自他を尊重する心を育む教育の推進(体験活動の実施) 新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における目標を達成するための取組として施設に求められているもの 青少年の自然体験活動の機会を提供し、青少年の心身の健全な発達と県民の生涯学習の振興に資する施設として位置づけられている。					
施設の面積	敷地面積:7,248㎡ 建築面積:1,660㎡					
主な設置施設	宿泊棟、研修室、多目的ホール					
指定管理業務の内容	料金制	有(利用料金併用制)				
	料金設定	宿泊料金1,980円～、多目的ホール等1時間550円～、体験活動料金はそれぞれによる。				
	サウンディング実施対象施設※	×				
	指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日				
	営業期間・時間	年中無休(年末年始除く)・受付時間8時30分～17時15分				
	① 使用の許可、使用の許可の取り消し並びに使用の制限及び停止に関する業務 ② 施設及び設備の維持管理に関する業務 ③ 体験活動の機会の提供に関する業務ほか					
自主事業の内容	○白神ガイドの会と提携した自然体験活動 ○食づくりや各種工作体験活動 ○白神の海と山のわんぱく夏塾、親子で体験隊ほか					
直近3年の年間利用者数	R4	4,024 人	R5	4,886 人	R6	5,110 人
直近3年の年間利用収入	R4	7,747 千円	R5	8,507 千円	R6	9,086 千円
直近5年の収支決算(単位:千円)		R2	R3	R4	R5	R6
収入 計		6,574	10,083	11,253	12,025	12,610
利用料金収入		2,949	6,547	7,747	8,507	9,086
指定管理料		3,575	3,461	3,442	3,442	3,442
その他収入		50	75	64	76	82
支出 計		36,793	46,036	40,644	43,253	43,547
人件費		24,982	34,002	25,817	26,485	28,465
光熱水費		1,887	2,371	3,167	3,558	3,793
修繕費		934	518	1,474	2,286	259
外部委託費		3,098	3,341	3,349	4,046	3,838
その他経費		5,892	5,804	6,837	6,878	7,192
差 引		▲ 30,219	▲ 35,953	▲ 29,391	▲ 31,228	▲ 30,937

※単年度維持管理・運営費が1億円以上の公募施設について、民間事業者の意見を参考に運営手法や公募要件を検討するため、指定期間終了の3年前にサウンディング(官民対話)を実施する。

2 観点ごとの評価

<観点Ⅰ> 施設の設置目的（施設の目指す姿）の達成に関する取組

【ポイント】

施設の設置目的（施設の目指す姿）を達成するための取組がなされ、その効果があったか。

○指定期間における運営方針・施設の利用目標

--

○目標の設定（毎年度、県と指定管理者が協議の上、業務計画書に定める目標）

令和6年度 の目標	宿泊利用者数3,100人を目標とする。
--------------	---------------------

○指定管理者による実績報告

令和6年度 の実績	実績	3,063	達成率	98.8%	
	具体的な 取組と その効果	令和6年度の全体の利用実績は、宿泊3,063人(前年比12%増)、日帰り2,047人(前年比5%減)であった。そのうち、セカンドスクールの利用については、令和5年度中にスケジュール調整を図った結果、65校、宿泊1,707人、日帰り164人が利用した。			
直近3年 の実績	年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	目標	2,500	3,100	3,100	
	実績	1,946	2,458	2,737	
	達成率	77.8%	79.3%	88.3%	
令和7年度 の目標 (設定根拠)	目標	宿泊利用者数3,100人			
	設定根拠	令和元年度並の宿泊者3,677人を期待するが、少子化等を考慮し令和元年度実績の85%程度を目標設定数値とした。 (3,677人×85%＝3,125人≒3,100人)			

※指標が複数ある場合は欄を適宜追加すること。

<観点Ⅰ>の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	令和6年度のセカンドスクールの利用については、対前年度＋6校、利用人数＋59人であった。一般利用を含む全体としては、日帰りが△102人の一方、宿泊者は＋326人で、合計では＋224人となるなど、コロナ禍からの回復が見られた。今後は、セカンドスクールの利用を行う学校への継続利用に関する広報を行うとともに、未利用の学校に対する当センター利用の企画・提案、PR広告やSNSの活用等情報発信に努め、利用の促進を図る。
	県 (所管課)	B	宿泊利用については、令和6年度の目標達成には至らなかったものの、令和5年度と比較して約300人程度増加している。学校以外の利用も見られ、自然体験活動の推進に一定の効果を上げていると評価できる。今後も施設の設置目的に沿った事業の実施と充実に努めてほしい。

【評価基準】次の基準により評価。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。
また、施設の設置目的（施設の目指す姿）を達成するための、指定期間における運営方針・施設の利用目標について、指定期間開始年度から評価対象年度までの達成状況をコメント欄に記載すること。

A: 目標達成(数値目標の場合は100%以上)

B: A及びC以外

C: 目標達成に向けて改善が必要(数値目標の場合は80%未満)

＜観点Ⅱ＞ 施設の有効性（利用者の満足度）の向上に関する取組

【ポイント】

サービスの質を維持・向上するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

利用者満足度 令和6年度 の実績	実績	94.0%		
	具体的な 取組と その効果	施設内では毎日の清掃、特に利用前後の掃除の徹底と消毒を欠かさず、外環境では芝刈、除草、清掃をこまめに行った結果、清掃面での満足度は100%であった。設備を含む施設本体と体験用具等についても、在庫管理やメンテナンスを定期的に行い、安全を確保している。		
利用者満足度 の状況 (直近3年)	R3年度	R4年度	R5年度	
	98.4%	94.0%	98.9%	

＜観点Ⅱ＞の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	A	セカンドスクール満足度調査において、利用しやすい環境94%、清掃の満足度100%、狙いを達成できる活動95%、事前の打合せ84%、スタッフ対応97%と高評価を得ている。今後の重点目標としては、利用者数の拡大につながるような新しい体験メニューを創設するなど、地域資源の活性化等を含め創意工夫に努めたい。
	県 (所管課)	A	日々のメンテナンスなどにより、敷地全体の環境整備が行われているほか、施設利用者の利用前後における準備・実施に対する評価も高い。引き続き、利用者のニーズを把握し、提供サービスの更なる向上に取り組んでいただきたい。

【評価基準】次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A: 満足度80%以上 B: A及びC以外 C: 満足度60%未満

＜観点Ⅲ＞ 効率性の向上等に関する取組

(1) 経費の低減

【ポイント】

施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和6年度 の実績	経費の 低減実績	令和6年度の支出は43,547千円で、主に人件費や光熱水費の増により、対前年度+294千円となっている。
	具体的な 取組と その効果	体験活動で使用する用具や消耗品については、適切な在庫管理に努めたほか、購入手続きの際は一括購入を図るなど、これまで同様に経費削減に取り組んだ。

※費用の総額では効果が計れない場合は、例えば利用者1人当たりの単価を算出する方法等も考えられる。

(2)収入の増加 ※指定管理料制施設を除く

【ポイント】

収入を増加するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和6年度 の実績	収入の 増加実績	利用料金は、対前年度＋579千円であった。
	具体的な 取組と その効果	コロナ禍からの回復という要因もあり、セカンドスクールの利用以外の一般団体(企業やスポーツ少年団等)の利用が前年度よりも増加している。中でも、スポーツ少年団はリピーターとなっていた団体も多く、一般団体の利用は増加傾向にあると思われる。 また、当センターに隣接するハタハタ館をはじめ、地域の民間事業者に飲食や入浴、体験活動の受け入れやガイドの受注機会を提供し、892万円程の経済効果をもたらしている。

<観点Ⅲ>の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	B	利用者増に伴う収入増であったものの、光熱水費や修繕費等による支出増があり、収支は若干改善された程度である。今後も物価高騰による支出増が懸念されるところであるが、セカンドスクールの利用及びその他一般利用の増による収入確保に努めていきたい。
	県 (所管課)	B	物価高騰が続くなか、着実に利用者及び利用料金収入の増による収支改善が図られている。今後も物価高騰の状況は継続と思われるため、支出内容の工夫に取り組み、八峰町が負担する収支不足の圧縮に努めていきたい。

【評価基準】 次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A: (1)経費の低減、(2)収入の増加とも前年比で5%以上改善

B: A、C以外

C: (1)経費の低減、(2)収入の増加とも前年比で5%以上悪化

<観点Ⅳ> 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組

【ポイント】

施設の管理運営（指定管理業務）の適切な実施に向けた具体的な取組がなされ、その効果があったか

○指定管理者による実績報告

令和6年度 の実績	○人員配置 ◆施設管理に必要な資格等 ・甲種防火管理者…1名資格あり、危険物取扱者…1名資格あり(乙種第四類)、食品衛生責任者…3名資格あり(表示は1名)、普通自動車中型限定解除…3名資格あり(1名は大型) ◆職員配置 ・町側…正職員:所長1名、所長補佐1名、研修企画・総務係長1名、会計年度任用職員:作業員、用務員通年各1名、季節(4～10月末)作業員1名、用務員2名、清掃パート:3名、パート日直2名 ・県側…派遣社会教育主事1名、研修員1名 ◆宿直 ・ハタハタ館に委託 ○職員の資質向上 ・毎朝のミーティングによる挨拶、日程等の確認 ・研修会等への参加 ○地域や関係団体等との連携 ・運営協議会での意見交換を年1回以上開催 ○安全対策 ・体験活動マニュアルの徹底と見直し、改善の実施 ・シーズン前の安全確認と事前研修の実施 ・利用者への食物アレルギー調査と食事提供先との調整 ○危機管理等 ・緊急連絡先リストの共有 ・消防訓練年2回実施
--------------	--

<観点Ⅳ>の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	B	施設の管理運営に必要な有資格者を確保し、施設維持に努めている。また、セカンドスクールの利用は小中学生が多いこともあり、施設利用前には団体関係者との事前打合せ、利用終了時には団体への利用アンケートや当センター職員による振り返りを行うなどして、安全安心な利用環境の維持に努めている。
	県 (所管課)	A	適切な人員配置や利用団体への丁寧な対応が、安全安心な施設の運営に寄与している。定期開催の運営協議会においても、施設運営に関して有意な意見交換が行われており、協力団体との関係も良好である。今後も管理運営に対する改善に取り組んでいただきたい。

【評価基準】 A:順調(改善点なし)、B:概ね順調(重大な問題点なし)、C:改善が必要(重大な問題点あり)
県(所管課)の評価においては、モニタリング結果を踏まえて評価を行う。

【県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方】

※全施設記載

○県の施策の達成状況(施設を運営することで、県の施策がどの程度達成されたか等)

- ・児童生徒の減少が進む中、セカンドスクールの利用者の増加が見られるなど、本県の豊かな人間性を育む教育活動の充実に寄与している。
- ・一般利用者向けの主催事業を開催し、生涯学習施設としても機能している。
- ・地域に密着した施設であり、地域の関係人口の創出に寄与している。

○施設運営の課題

- ・まもなく築20年を迎えるため、施設設備の経年劣化による修繕が増加している。
- ・一般利用者の利用拡大が課題である。
- ・冬期間の集客に課題が存在する。

○今後の方向性(県の施策の達成状況や課題を踏まえて、今後所管課としてどのように対応していくか等)

- ・指定管理者との情報共有により、課題の早期把握に努め、課題解決に取り組む。
- ・指定管理者が社会動向や利用者のニーズを把握し、適切な企画の立案・実施に取り組めるよう支援する。
- ・指定管理者における立地条件を生かした冬期間の企画の立案や、積極的な情報発信の取り組みに対し支援を行う。